



バックナンバーはこちら  
から御覧いただけます。

Hokkaido community and school collaboration

# 地学協働

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

2024年7月 No.22

## 1 北海道地学協働アワード2024

### 【実施の目的】

地域課題を踏まえた学校教育目標やスクールミッション達成のため、生徒が多様な学習活動に取り組めるように**地域との連携・協働体制を構築している学校**の功績をたたえるとともに、全道における地学協働のより一層の推進と活性化を図ることを目的に実施し、北海道教育委員会教育長が表彰します。

### 北海道本別高等学校 「とちか創生学」を核とした取組

核創  
**創意実践**  
育成を目指す資質・能力  
① 課題解決力 ② 創造力 ③ 主体的行動力  
④ 協働力 ⑤ コミュニケーション能力 ⑥ 遂行力

スクールミッション  
1 地域の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、**地域の未来を創っていく生徒の育成**  
2 社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付け、**持続可能な社会の実現に努める生徒の育成**  
3 **グローバルな視点をもち、社会の変化や社会課題に対応できる生徒の育成**

「とちか創生学」の探究テーマ  
1 正解のない課題に挑戦し探究し続ける力の育成  
2 次世代に十勝を牽引し地域を支える力の育成  
3 **グローバルな視点をもって地域を支える人材の育成**

地学協働の推進

「学びの質」向上

【北海道本別高等学校（昨年度グランプリ）のスライド】

- 応募対象 **高等学校、中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部 ※道内の公立校のみ応募できます。**
- 応募方法 ①エントリーシート②スライド③発表動画を担当者へメールで送付（スライドは社会教育課HP、発表動画はYouTube社会教育課CHで公開）
- 応募期限 **令和6年12月6日（金）17:30厳守**

右の二次元コードを読み取ると、北海道地学協働アワード2024の「実施要項」や「応募要領」、昨年度グランプリの本別高校のスライド資料などを見ることができます。→→



### 審査のポイント

生徒の学習活動の充実に向けて、学校が**①どのように地域との協働体制を構築し、②実際に連携・協働することでどのような活動ができたのか、そして③協働体制構築の成果（生徒や地域の変容）**の3点について審査員が8つの観点でエントリーシート、スライド、発表動画で評価します。

本アワードでは、総合的な探究の時間に限らず、教育課程に位置付けている生徒の学習活動に関わる**連携・協働体制の構築**であれば審査の対象となります。各学校の特色ある体制構築を、ぜひ御紹介ください！

分類	観点	審査項目
学校内の協働体制構築	・連携体制の有無 ・地域連携担当の明確化 ・教職員の意識の変容	・教職員が地域との協働により、よりよい教育活動を展開しようとしているか。 ・地域連携教員等がコーディネーター的役割を担い、地域との連携がスムーズに行われるなどの校内の連携体制が整っているか。
	・地域住民による教育活動への参画 ・地域の協働体制との連携	・地域住民が多面的・多角的に学校の教育活動に参画しているか。 ・地域のコーディネーターや地域学校協働活動推進員等とつながりを持ち、地域と学校が連携できる体制が整っているか。
協働体制構築による多様な学習活動	・多様な学習活動の有無	・協働体制のもと、学校と地域が生徒のため多様な学習活動を行っているか。 ・地域課題が解決されるなど、生徒の学習とともに地域にも連携・協働のメリットがある活動であるか。
協働体制構築の成果	・学校や生徒、地域の変容	・学習成果による学校や生徒の意識の変容が見られ、発展的に取組を展開しているか。
	・学校教育目標やスクールミッションの達成度	・学校教育目標やスクールミッション（高校に期待される社会的役割）が、学校と地域に共有されるとともに、目標が達成されているか。

開催日：令和6年（2024年）6月20日（木）

主管：上川教育局

開催地：旭川市（上川合同庁舎）

参加者：51名

放課後や休日などにおける子どもの活動拠点づくりに関わる方々の資質向上を図ることを目的として放課後児童クラブ支援員や放課後子ども教室の指導員、行政職員、児童センターの職員、民生委員・児童委員などが参加しました。本協議会には、上川、空知、留萌、宗谷、オホーツク管内から参加がありました。

## 1 講義＋演習（45分） 「特別な支援を必要とする子どもへの接し方とは？」

講師 上川教育局義務教育指導班主任指導主事（特別支援教育スーパーバイザー） 小寺 寿 臣 氏

講義では、「特別支援教育の現状」、「ユニバーサルデザイン」、「一人一人に応じた支援」、「安心できる言葉掛け」等の説明や解説をしました。参加者は、学校や放課後デイサービス、児童館等における支援の在り方や指導者の声かけについて具体的に説明を受け、特別な支援を必要とする子どもへの接し方を学びました。

演習では、子どもが安心できる言葉掛けを考え、周りの人たちと交流し、学びを深めました。



特別な支援を必要とする子どもへの接し方を学ぶ参加者

特別な支援を必要とする子どもへの接し方（まとめ）

- 「全体への支援」と「個別への支援」の両面で考える。
- 子どもの実態や状況にあった褒め方を見つける。

## 2 選択研修

### （1）「体験的な手法でコミュニケーションを学ぶプログラム」

講師：道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川

社会教育主事 谷川 洋史氏

### （2）「ヒヤリハットを減らすために～子どもが活動する際のリスクマネジメントを学ぶプログラム～」

講師：国立大雪青少年交流の家

事業推進係長 日比野 功宜氏

### （3）「手作り楽器でリズム遊びを学ぶプログラム」

講師：札幌ドラムサークル 代表 米澤 倫子氏

3つの選択研修を用意し、アイスブレイクなどゲーム的な体験を通して子どもと円滑なコミュニケーションを取る手法や、子どもの活動時におけるリスクマネジメントの視点、手作り楽器の作成とリズム遊びを通して協調性を高める方法などを学びました。



選択研修2 「リスクマネジメント」



選択研修3 「リズム遊び」

## 3 情報交流

それぞれの職場で抱えている、子どもの活動支援や放課後児童クラブ・放課後子ども教室等の運営に関することについて、職場で工夫していることや共通認識をもって取り組んでいることなどについて情報交流しました。

交流で話題になったこと

- 特別支援学級在籍児童の個別対応
- けんかの対応
- 支援員（担い手）の不足
- 保護者対応



悩みや実情などを共有する参加者

### 【全体の感想】

- 研修内容が実際に体験することで身に付くものだったので、参加できてとてもよかったです。
- 情報交流で、所属が異なる人のお話を聞くことができとても有意義な時間でした。
- 研修で得たことをミニ研修として他の職員へ広げていきたいです。アイスブレイクはすぐに実践します。
- 実際に参加してみて、やはりオンラインではなく、実際に会って交流できた方がいいなと思いました。

# 3 令和6年度地域と学校の連携推進協議会（全道）を開催しました

6月12日（水）、オンラインで令和6年度地域と学校の連携推進協議会（全道）を開催しました。

本協議会は、子どもたちのよりよい成長を支える「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の効果的な在り方を理解するとともに、地域と学校とが相互に連携・協働する方法等について、今後の方策を検討するなどして、各地域の実態に応じた地学協働体制の推進を図るもので、道内の各市町村教委職員や学校教職員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーターなど約200名が参加しました。

## 1 講話「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の効果的な取組」

講師 文部科学省国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 志々田まなみ総括研究官

社会教育課から、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進について、各制度の概要や本道の状況を説明したのち、志々田総括研究官から、学校運営協議会とコミュニティ・スクールの関係や学校運営協議会の設置・進め方について御講話いただきました。

### 〈主な内容〉

- コミュニティ・スクールは、学校と地域で「どんな活動をするか」ではなく「どう進めているか」がカギであり、**学校運営協議会は、報告や承認の場だけでなく、子どもの成長を真ん中に据えた教職員と地域住民との相互理解や学び、相談・協議の場とすることが大切。**
- 学校運営協議会を設置し、進めていく際には、まず確認からスタートすることが考えられる。学校の課題やこれからの子どもたちに育てたい力などについて話し合い、**子どもたちのために学校、家庭、地域は「何ができるのか」という共通の問いが生まれるようにすることが大切。**
- 保護者や地域住民の当事者意識を育むためには具体的な活動が必要。



【志々田総括研究官】

### 〈参加者の声〉

- 学校と地域が、子どもたちに育てたい力などの目指すところを共有できるように、学校運営協議会では、学校が困っていることもしっかりと伝えて協議・熟議できるようにしていきたい。
- 学校運営協議会委員の校内研修参加や様々な立場の人たちが思いを伝え合う拡大学校運営協議会を行い、地域と学校がビジョンを共有した上で、具体的な活動につなげられるようにしていきたい。

## 2 パネルディスカッション

### 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進する意義とその可能性」

3名の北海道地学協働アドバイザーから、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進について、各市町村や学校の状況、推進する意義、推進に必要なことなどをお話いただきました。

### 〈主な内容〉

- **学校運営協議会において熟議や協議をしっかりと行い、地域の方の当事者意識を高めることが大切。**地域の方の当事者意識が高まることで、地域学校協働活動も活性化していく。
- 学校運営協議会や地域学校協働活動を推進するためには、**教育委員会が後ろ盾となってネットワークを作っていくことが必要。**特に、コーディネーター、社会教育士、社会教育主事の役割が重要。
- コーディネーターの発掘に苦慮しているという話を聞く。**教育委員会や学校は、様々な機会に地域の方々と関わり、コーディネーターに適している方に声をかけていくことが必要。**

### 〈参加者の声〉

- 地域と学校が連携・協働した活動を通して、地域の大人が頑張っている姿を子どもたちに見せていくことにより、子どもたちの成長を促すことができるというお話に共感した。
- 高校や特別支援学校においては「地域」を柔軟に捉えることが必要であることが分かった。遠方の方であっても、学校の教育目標の実現に向けて必要な方に委員をお願いすることを検討していきたい。



【左から、青田アドバイザー、舩田アドバイザー、森アドバイザー、道教委国枝主査】

ブロック別の「地域と学校の連携推進協議会」では、実践発表や協議を行う予定です。各主管局から送付される実施通知で詳しい内容や申込み方法を御確認の上、ぜひ御参加ください。

# 4 子どもの読書活動推進コーナー

道教委では、子どもの読書活動の推進に関することにも取り組んでいます。今回は、檜山管内と留萌管内の学校図書館の好事例を紹介します。

## 【檜山管内】町の子どもたちの読書活動を推進するために（今金町立種川小学校）



保護者向けの家読講話の様子

### 図書室職員による参観日の“家読講話”

種川小学校では参観日に合わせて、町の図書室担当職員が、保護者を対象に家読講話を行っています。児童の家読が充実するよう、家読の取り組み方やおすすめの本、町図書室の利用方法などについて紹介し、保護者の読書活動への関心を高める取組を進めています。

「家読」とは…家族で読書習慣を共有し絆を深める活動  
(今金町民センター図書室だよりから引用)

### 町内全校の蔵書情報データベース化

今金町では、令和4年に行った今金中学校の新校舎移転を機に、蔵書のデータベース化を行っています。種川小学校では、中学校での成果を生かして、町教委職員とも連携しながら、効率的にデータベース化に取り組みました。分類ごとに配架する作業は、ALTも協力してラベル貼りなどを行いました。

現在、今金小学校でも取組を進めており、本年度中に町内全校の蔵書情報のデータベース化が完了する予定です。



分類ごとに配架された本の棚

## 【留萌管内】地域ぐるみの関わりで充実する学校図書館（増毛町立増毛小学校）

### 地域ぐるみで行う読書環境の支援

増毛町では、町内学校関係者、教育委員会職員、町図書室の司書からなる図書館協議会を設置し、子どもたちの読書活動の推進に取り組んでいます。町図書室による各学級への本の団体貸出や司書による本の読み聞かせ、町内で活動する女性学習グループ「さくらコミュニティ学級」のメンバーによる本のカバー掛けなど、地域の多様な人材が学校に関わり、子どもたちの読書活動や読書環境の整備を支援しています。



全校朝会での読み聞かせ

### 司書教諭・学校司書・教職員が連携した取組

本の団体貸出の際に集まった児童へ行っている読み聞かせや、朝会での読み聞かせとブックトーク、図書担当教諭による本や言葉に関するクイズ等の掲示など、児童が言葉や物語に興味を持ち、学校図書館に足を運びたくなるよう工夫されています。

学習で取り組んだ制作物等の学校図書館への展示も行なっています。



貸し出された大型絵本を授業で活用

題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

(公益社団法人 北海道観光振興機構) のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>